

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>今後より一層実現に向けて、全ての職員が再確認を繰り返し行えるような場(ユニット会議など)を設けて、自己意識を高めていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今後もご家族や地域の方々により理解していただくことが出来るよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>今後はより親しみやすい付き合いができるよう、挨拶や話かけを積極的に行っていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>今後も催しものには積極的に参加させていただき地域の方たちとの交流を図っていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>今後も「運営推進会議」などの話し合いの場を通じて取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価においては、平成18年に行っており、その際には職員に実施の意義を説明し、理解したうえで評価を行い、改善が必要と思われる項目に関しては、改善に向けて取り組んでいるが、定期的な自己評価の実施が必要と思われる。外部評価においては、今回が初めての実施となる為、スタッフに外部評価について事前に説明を行い、理解したうえで実施できるよう取り組んでいる。	○	スタッフ一人一人が自己意識を高めることができるよう積極的に定期的に自己評価や外部評価の実施を検討していく。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の受診状況や行事などの活動報告を行っており、ホームでの取り組みについて参加者に理解・把握していただけるよう話し合いを行っている。また、会議内にて出た意見や指摘等については、今後のサービス向上に活かす為、各ユニットにて持ち帰り、取り組みの検討を行い、次の運営推進会議にて評価することとしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外では、福祉事務所や保健所の担当者と関わる機会を大切にしている。市町村担当者の定期的なホームへの訪問、相談や確認があれば電話連絡を行う等、市町村との連携を密に行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	「権利擁護」や「成見後見制度」等に関する研修が開催された際には積極的に参加し、その後、参加した職員が中心となりユニット会議等の場で研修報告や資料の配布・勉強会等を行い、知識として職員全員が理解できるよう取り組んでいる。現在において、地域権利擁護事業や成年後見制度を必要とされる方がいない為、活用する機会はない状況である。	○	今後もスタッフの研修会への参加を促し、地域権利擁護事業や成年後見制度において必要とされる方がいた場合に、速やかに対応できるよう取り組んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員による定期的な会議を行い、入居者の現状を見直し拘束や虐待に当たる行為はないかその都度話し合いを行っている。また、月1回行っているユニット会議の中でも入居者一人一人の情報を職員間にて交換しながら、ケア内容の見直しを行い統一したケアを提供できるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用料や医療連携体制、入居にあたっての留意事項など契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。また、事前にご家族やご本人にホーム内を見学していただき、職員や他入居者、部屋の雰囲気などを実際に見ていただき、理解・納得していただけるよう説明を行っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中で何でも話すことが出来るよう馴染みの関係作りに取り組み、会話の中や表情・行動にて意見や不満を読み取ることが出来るよう観察している。また、町内会の催し物や町内会の方たちを招いての「パン教室」にて馴染みの関係作りを図り、話が出来た環境を設定している。入居者からの意見などが聞かれた場合は日々の申し送りや毎月のユニット会議にて検討している。		今後も利用者から気軽に何でも話していただけるよう馴染みの関係作りを取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族来所時には暮らしぶりや健康状態を報告し、状態変化時には電話にてその都度、報告・相談をしている。また、毎月1度の「ご家族様への手紙(写真付き)」にて月ごとの金銭状況(預かり金)と1ヶ月の入居者や職員の状況を報告している。		今後も入居者、ご家族に合わせた報告を行い、ご家族により安心していただけるよう取組んでいきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来所時に職員と話す機会を作りコミュニケーションを図ると共に、玄関に「意見箱」、フロア入り口に「苦情処理について」の文章を掲示している。また、「運営推進会議」や「家族会」にてご家族からの意見などを聞かせていただける場を設けている。また、ご家族よりいただいた意見はその後改善できるよう会議などにて話し合い取組んでいる。また、不満や苦情は開設から現在に至るまで寄せられていない。		今後もご家族が気軽に意見などを話すことが出来るよう職員との馴染みの関係作りや場を設けていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、意見や提案が反映できるよう会議にて話し合いを行っている。		今後も職員が積極的に意見や提案が出来るよう、よりよい関係作りにも努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や予定など事前に対応できることに関しては、勤務表の調整を行い変化や要望に沿った対応が出来るよう努めている。また、緊急の場合に関しては、管理者又は夜勤明けの職員にて対応することとなっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者が特定の職員のみと馴染みの関係を深めてしまうことがないよう、ユニット内の全職員が全入居者と馴染みの関係を築くことが出来るよう日々取組んでいる。移動や離職があった場合には入居者の状態に応じて、理解・納得していただけるよう事前に繰り返し説明を行っている。移動・離職後、または新職員入社後は、他の職員が協力してサポートしあい利用者心身の安定を図っている。また、職員間の申し送りや会議を密に行い今までと変わらない統一したケアを行えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1ヶ月に1度のユニット会議や市町村で行われている研修や実務者研修・管理者研修に参加している。	○	ユニット会議での勉強会を今後も継続していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている。	道南グループホーム協議会の研修会や勉強会、交流会等へ参加したり、相互訪問等の活動を行っており、そこで得た情報や意見を当ホームにて活かせるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に運営者・施設長とスタッフとの面談を行い、悩みや不満など話し合いが出来る場を設けている。また、親睦会などを行いスタッフ同士のコミュニケーションを図る場を設けている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	毎朝の申し送りや定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、各職員が意欲的に働くことが出来るよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には事前にホームを見学していただき、職員や他入居者、居室の作りなどの雰囲気をご本人に感じていただけるよう努めている。また、ご本人と話をする機会を設け、現在の率直な気持ちや今後の希望などを聞き、ご本人が安心して入居の日を迎えられるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前面談を行い、利用に至るまでの経緯やご家族の不安や希望などを聞く機会を設け、ご本人・ご家族共に安心して入居の日を迎えられるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の窓口を決めて時間を作り対応し、本人が必要とするサービスがあれば序言している。	○	相談を受けた時は親身に対応する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の面談にて本人やご家族から希望や要望を聞き職員に伝えると共に、見学に来ていただき、ホーム内の案内や他入居者・職員の紹介を行っている。また、馴染みの物を使用していただきたいことを伝え(食器類・タンスや布団など)、本人・ご家族と相談しながら居室の配置を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
28	<input type="checkbox"/> 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	<input type="checkbox"/> 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。		
30	<input type="checkbox"/> 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	<input type="checkbox"/> 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○	今後、家族への手紙や、イベント(敬老会など)への参加の呼びかけなどを行い、契約終了後においても継続的な関わりを持てるよう取組んでいきたい。契約が終了しても、ご家族がいつでもホームに立ち寄り、相談などが出来る関係を築いていけるよう努力していきたい。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員一人ひとりが各入居者の生活歴を知り、昔話などの会話をしながら本人の馴染みの生活について把握し、得意な事を手伝って頂いたり、教えて頂いたりとその方の喜びや自信につながるよう支援を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人一人の排泄、食事、水分、睡眠等を把握できるよう、職員は入居者の日々の行動や表情・会話などを観察し、それをもとにアセスメントを行っている。また、身体状態においても小さな変化を見逃さないよう日々の体調を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全職員にて本人やご家族、必要に応じて医師からの希望や要望、指示を収集し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議にて情報交換を行っている。また、毎月のユニット会議にて担当職員・介護支援専門員を中心としながら介護計画の見直しや作成を行い、実行に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	大きな変化が無い場合6か月に1回モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。また、入退院、骨折等入居者の状況変化に合わせ適切な介護計画をその都度見直す様にしている。介護計画を作成する際には、ご家族の意見や今後の希望も取り入れながら今後の計画を作成できるよう取り組んでいる。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを活用し24時間の記録を行っている。日々の体調(バイタル、排泄)は表にし異常や急変に対応できるようにしている。利用者の特変や受診内容等はノートに記録し職員は出勤時に必ず目を通している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の外出、外泊、面会は随時受け付けている。また、病院受診の際は職員が付き添い状況を御家族へ説明、連携を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	開設時より、周辺地域の施設(警察)へホームの情報を伝え、ホームの理解を広げるよう働き掛けを行っている。また、定期的に消防の職員同伴での避難訓練を行っており、その都度情報を提供することで、協力を得られるよう働きかけている。	○	今後は、消防や警察などの施設だけではなく、近隣の方や町内会の方々にも情報を提供し、理解・協力を得られるよう積極的に働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターや他のケアマネジャーと日頃から連携を取っている。	○	常に地域のケアマネジャーやサービス事業所と連携を取っていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に行っている「運営推進会議」に参加していただき、利用者の状況や活動の報告、支援センターからの情報をいただいたり、必要に応じて連絡を取り合っている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的に本人、ご家族の希望するかかりつけ医への受診を行っている。特に希望がない場合には、協力医療機関での受診を行っている。また、ホームでは月2回協力医療機関の訪問診療を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師や、メンタルクリニックの医師へ相談し、指示・助言をいただいている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制として、協力病院より看護師を職員として配置している。また、変化時には24時間連絡可能な協力医療機関も確保しており、いつでも気軽に相談できる状況である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には職員が付き添い、本人のホームでの状態等の情報を医療機関に提供している。入院中には、定期的な訪問(お見舞い)を行い、本人の不安な気持ちを軽減できるよう努めている。早期退院できるように、家族・医療機関と情報交換を密に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	今後、対象となる方がより良く日々を過ごすことができるよう、検討や準備を行って行きたい。
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	○	職員は、入居者との日々の関わりの中で「尊敬」する思いを忘れないよう接しているも、馴れ合いの関係などから言葉使いの乱れなどが時々見られることもある為、職員同士が入居者との関わり方について定期的に確認できるような機会(ユニット会議など)を作って行きたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。		
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。		
56	<input type="checkbox"/> 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	<input type="checkbox"/> 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
58	<input type="checkbox"/> 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<input type="checkbox"/> 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○	提供しているレクリエーションや活動の内容がマンネリ化しないよう、個々の出来る範囲で変化を持たせながら継続して行えるよう工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族より預かっているお金は事業所が管理している。また、個人でお金を管理している方については、買物支援等を行いながら、その場面で本人自ら支払いが出来るよう支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に添って買物や散歩・ドライブ等の支援を行っている。又、意思疎通が出来ない方に関しては、気分転換・筋力低下防止も兼ねて無理強いせず本人の体調や気分に合わせて散歩やドライブなどの外出支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事や誕生者がいる月は、本人の希望に合わせて外出出来るよう支援している。また、家族にも行事への参加を呼びかけ、一緒に外出出来るよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	日常的に電話や手紙を自由に出せるようにしている。意思疎通が困難な方に対しては、職員が手助けをしながら、なるべく本人が年賀状や手紙を出す為の支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の都合のよい時間に気軽に訪問していただけるよう、面会時間は定めていない。訪問者や本人の希望に添い、居室やリビングで居心地良く過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。身体拘束委員会を設けており、委員会の開催(6ヶ月毎)・毎月ユニットごとに拘束について話し合いを行い、職員一人ひとりが拘束のないより良いケアについて考え取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関に鍵を掛けずに入居者様がストレスを感じぬよう自由に出入りできる ようにしている。入居者様が外出しそうな時は、入居者様に添った声掛けを行い、一 緒に付き添いをしたり、時には距離をおいて見守りし、会話を楽しみながらさりげなく 誘導を行い安全面に配慮しながら対応している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	本人の意思を尊重しながら自室やリビングにて過ごしていただいている。入居者 が、リビングに居る際は、入居者同士がコミュニケーションを取りやすいよう、団欒の 場作りをし、記録等の記入については同じ空間にて行うようにしている。入居者が居 室に居る際は、定期的に訪室し、居室にて会話や余暇を共に楽しんだりプライバ シーや安全面に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	御家族や本人様との相談の上、入居者の状態やその状況に応じ保管管理が必要 なものが入居者が使う時に注意が必要な物等に分けて管理している。また、使用す る際は職員が付き添い一緒に使用する等しながら危険防止の配慮を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	常に状態の把握に努めている。毎日のカンファレンスだけではなく職員間の情報伝 達を徹底し事故防止に取り組んでいる。また、外部研修会の参加のほかユニット会 議にて勉強会を実施し、知識の向上に努めている。万が一事故が発生した際は、速 やかに事故報告書を作成すると共に職員全員にて話し合う場を設け予防策を検討 している。議事録については、全職員に配布し尚且つ常時観覧できるようにしてい る。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	急変時対応マニュアルを作成し全職員に周知している。また、ユニット会議等の場 で勉強会を行い、職員の知識の向上に努めている。	○	AED等の勉強会等に積極的に参加し、職員全員が更なる知識・技術・判 断力 の向上に努めて行きたい。応急手当の訓練等にも積極的に参加してい きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	消防職員に立ち合ってもらっての、またホーム内での避難訓練(日勤帯・夜勤帯での 火事や地震)を定期的に行っている。運営推進会議にて避難訓練の報告を行い、町 内会の方々の協力を働きかけている。また、町内会の催し物に利用者の方と共に 参加させていただき、地域交流を図っている。	○	今後は、家族や地域の方々にも避難訓練に参加して頂けるよう 働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様個々にあった支援をするにあたり、場合によってはリスクが高くなることはあるが、残存機能を活かし、抑圧感や圧迫感の無い安心した生活が出来るようご家族と話し合いをしながら、支援内容を検討している。また、面会時にも近況報告を密に行い、本人のありのままの状況を報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の申し送りや日常の職員同士の情報交換により、入居者個々の現在の情報を共有することができている。身体面や精神面の小さな変化であっても職員はその都度その情報を提供するように心掛けている。変化の状態に合わせて病院受診等速やかな対応が出来るよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が服用している薬の内容についてしっかりと理解したうえで支援できるよう、入居者一人ひとりの「与薬表」を作成し、随時確認できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘が及ぼす影響(病気や体調の変化)について理解しその予防対策の為、入居者の状態に合わせてながら食事には食物繊維を多く含む食材や乳製品を取り入れるように心掛けている。また、日中の活動に体操など運動の機会を提供し、継続して行うことで便秘の改善・予防を図っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後・就寝時には、義歯の洗浄や口腔ケアを行っている。入居者個々の状態に合わせて、ブラッシングの困難な方にはコットン等を使用しての口腔内清拭を行いながら清潔の保持に努めている。口腔ケアの際には、舌苔のケアも行っている。口腔内にトラブル(歯茎の炎症や出血、義歯の破損等)が見られた際には、速やかな病院受診を行い症状の改善を図っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事において、栄養やバランスが偏らないよう事前に週・月単位での献立表を作成している。個々によって、食べる量に差はあるが栄養バランスの取れた食事ができるよう支援している。水分量においても、毎日摂取量のチェックを行いながら十分な水分の飲用を促している。水分摂取において拒否のある方に対しては、好みの飲料を提供するなどし、進んで水分を飲用できるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、入居者・職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。また、手洗いうがいを徹底し、手を拭く際には「ペーパータオル」を使用することとしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	使用後の調理器具(まな板・包丁・食器ふきん・台拭き)においては、毎日消毒を行い、食中毒の予防に努めている。刺身などの「生もの」を提供する際には、当日に買出しを行っている。また、調理時、火を使う場合には食材に十分火を通すよう調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム横に芝生を設置したり、周辺に草花を植え、入居者やご家族・近隣の方々が安心して出入りしていただけるような環境作りを行っている。また、ホーム周辺を塀等で囲まず見やすい表札を設置している。	○	近隣の方々に気軽に立ち寄っていただけることは現在少ない状況となっている。 今後、より親しみやすい付き合いが出来るよう挨拶や話し掛け・環境設定を行い、気軽に立ち寄っていただけるような日常的な付き合いに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中においては、窓からの日差しの調整や声掛け時の職員の声のトーンやテレビの音量、掃除器や食器を扱う際など、入居者にとって不快と感じる音や光などに配慮するよう努めている。家事作業の手伝いや季節にちなんだ作り物や遊び・歌などを日々の活動に取り入れながら、入居者に生活感や季節感を感じていただけるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にはソファを設置したり、玄関には椅子を用意し、一人になりたい時や気分転換したい時などに利用していただいている。また、食卓にて団欒できるよう、入居者が自由に過ごせる空間を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に家族と話し合いながら、本人の使い慣れた馴染みのもの(家具や食器・衣類など)を持ち込んでいただくようにしている。また、新しいものの購入時には、極力本人と一緒に買物するようにし、好みの物を選んで頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房による温度調節や定期的な空気の入替えなどを行っている。また、冬場には、居間・自室に加湿器を設置し、乾燥を防いでいる。また、個々に合わせて衣類による温度調節を行いながら入居者が快適に過ごせるよう努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内廊下には、手すりが設置されており、歩行不安定な方に使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口前にはそれぞれ「表札」を置き、自ら自分の部屋を見つけやすいようにしている。また、トイレのドアに大きな字で「トイレ」と表記することで、自ら場所を探すことが出来るよう工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム横にある芝生や駐車場を利用し、バーベキューや日向ぼっこなどができるよう活用している。また、家庭菜園にてスタッフと入居者が苗植えや草むしり・水やりなどを共に行ながら楽しめる活動を提供している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えています。 <input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・利用者様がゆとりある、家庭的な環境の中で、心より安心して生活をしていただけるよう、本人の希望・意向を聞き入れ実現できるような雰囲気づくりを目指し、職員が常に考えながら傾聴に心がけ、一人ひとりに接し、年齢や心身の状況に合わせて自立した日常生活を送ることができるように支援している。

・平穏な生活の中にも季節の移り変わりなどを感じていただくため、毎月行事を企画したり、地域の行事などにも参加させていただきながら地域に密着したホームとなるように取り組んでいる。